

第1回 土砂災害における効果的な救助手法に関する高度化検討会 議事概要

1. 日 時：令和元年9月3日（火）13:30～15:30

2. 場 所：東京八重洲ホール 901 会議室

3. 出席者（敬称略）

・委員：石塚忠範、海堀正博、小林恭一、玉手聡、稲継丈大、植田謙吉、正代莊一、
高橋卓司、槇野稔、吉田克己

・オブザーバー：新井場公德、喜多光晴、明田大吾、鍋谷武志（代理）

4. 議事内容

（1）あいさつ

・消防庁国民保護・防災部長よりあいさつ

（2）委員紹介

（3）座長選出

・座長に東京理科大学総合研究院教授 小林恭一氏を選任

（4）議題

①検討会の目的等（資料3）

・事務局から「資料3」に基づき、本検討会の目的、主な検討事項、検討方法、検討スケジュールなどについて説明

－質疑・意見なし－

②土砂災害対応状況に関する調査について（資料4）

・事務局から、「資料4」に基づき、消防本部における「土砂災害対応の実態調査」として、運用体制整備状況、マニュアル整備状況、訓練等実施状況及び活動事例について調査結果を報告

・上記調査結果を基に、事務局において事例調査を踏まえた課題について説明

－質疑・意見なし－

③主な検討事項について（資料5）

・事務局から「資料5」に基づき、本年度調査結果及び26年度にまとめた報告書の内容を踏まえ、より充実した改訂版を出すようなイメージのもと、本検討会で議論すべきテーマについて説明

【質疑・意見】

（委員） 行方安否不明者がいるままでは搜索の範囲が絞れないので、早期特定という点を掘り下げられればと思う。

（委員） 土砂災害の現場は立体的な現場であり、要救助者を助ける傍らで殉職者も出してはいけないという特殊な現場なので、専門家を交えて安全を確保しながら総合力をもっていかに消防力を発揮していくかということが肝要である。

- (委員) 大きな土砂崩れに関して国でも重機の配備等を進めており、民間の重機とうまく連携できればスムーズに進むので重機の活用要領には重きを置いて深掘りしてほしい。
- (委員) 昨年広島豪雨の際に現場で感じたことだが、早期にこだわるならば、はじめに重機をどれだけ入れて整地を作り、掘った土砂をどこにどれだけ出せるかということが二次災害防止には必要。
- (委員) 次にどのような災害が発生するかがわからないので、それが見極められるような材料があれば現場も安全である。重機等も含め、取扱い要領等を出していただければ参考になる。
- (委員) 質問として、アンケート結果で訓練を実施しているところというのはどのような内容の訓練を実施しているか。
- (事務局) 国からの重機が配備されている本部、訓練施設があると回答した本部は比較的訓練を実施しているが、それが無い所は訓練自体が出来ないという回答が多い。実施の訓練内容としては図上訓練が多いが、実際に土砂を使った場合には、人形を埋め込んで隊員が掘り出すといった体験型の訓練や、土砂の排除を効果的に行うなど、環境に応じた問題意識を持って色々なパターンで実施しており、その意味で訓練を実施している本部とできない本部が二極化している。
- (委員) 安全管理については、場所の特性によるので画一化するのが難しく、まず安全管理の座学という点で基本的なところの知識を押さえることが重要。また、座学で知識を身につけると共に、土砂災害の危険箇所の点検などを地元の土木と消防とが協力して、6月の土砂災害防止月間に併せてパトロールのような形で実施するなど、普段から現場を見ておくことがいざというときのために必要なもので、そのあたりもマニュアルに盛り込んでいただきたい。
- (委員) 土砂災害には様々なタイプがあることから救助の安全ではそれに応じたものを検討することが必要ではないだろうか。例えば、大規模崩壊か小規模崩壊かの規模による違いや斜面崩壊か溝崩壊かの現象による違い、さらに、崩壊前か崩壊後かの土の状態による違いなどである。土砂崩壊による労働災害も同じく様々な状況で発生している。また、建設機械との接触事故も同様に発生している。消防隊員と作業者の安全問題は共通性の高いテーマとを感じる。
- (委員) 26年度の報告書においては、当時の第1回検討会の前に起きた伊豆大島の豪雨災害、その後の広島災害など雨が原因の土砂災害が多く、雨に起因する土砂災害に関する記述が中心であるが、最近では熊本災害や北海道胆振東部地震災害などにもあるように地震がきっかけで土砂の移動が多発して多くの犠牲者が出ているので、地震による「土砂移動現象」発生の危険性についても加えた方がよいのではないかと。また、今年は気象の関係で5段階の警戒レベルが出たので、その部分も付け加えることが必要。後は事例の充実で、人の命を救うために頑張っている方が巻き込まれる危険性に関する事例についてマニュアルとともに参考として掲載すべきである。
- (オブザーバー) 二次災害の事例については集めているので、報告書には集約したい。26年度に内容が降雨中心だったのは広島の災害に特化したためでもあり、今見ると不足している点もある。作業要領と、各隊長が考える安全の局面を書き分けることが難しく、今

回はそれが整理でき、災害事例やヒヤリハットなどを充実できればと思う。
(座長) 色々な意見を頂戴したので、それを元に報告書をまとめていければと思う。

5. その他

(1) 土砂災害対応における奏功事例及びヒヤリハット事例調査報告(資料6)

- ・事務局から「資料6」に基づき、奏功事例とヒヤリハット事例を説明

【質疑・意見】

(座長) これはもう少し集めるということか。

(事務局) 消防本部からの情報は集めたので、事務局で追加情報を聞くなど努力したい。

(委員) このまとめ方に関して、実際に記述の元となった場所、状況、写真がないと情報が生きてこない。たとえば広島で災害が起きてても活火山地域ではないので熊本、北海道などとは違う状況が生じたりするので、どこで起きたのかというのが重要で、それによって実感を伴った理解につながると思う。

(事務局) どこの本部からの意見かは分かるので、追加調査の中で、地質等の情報を掘り下げるなど検討したい。公表の段階で、失敗の事例などは本部の意向を含めてどれだけ出せるか等の検討は必要ではないかと思う。

(座長) 関係者の了解を得られる範囲で、なるべく具体的なことが分かるようにしていただきたい。

(2) 消防本部による工夫

- ・事務局から「資料7」に基づき、消防本部による工夫事例を説明
- ー質疑・意見なしー

(3) その他

- ・事務局から次回の検討会日程について連絡

【質疑・意見】

(座長) 他に最後に意見があれば伺いたい。

(オブザーバー) 土砂ダムのところは消防だけでは見えないところがあるので、事務局と国交省で連携して検討していきたいと思う。

以上